

# 合併60周年の記念の年に

小野町議会議長 村上 昭正

明けましておめでとうござ  
います。

町民の皆さま方におかれま  
しては、ご家族ともども輝か  
しい新春をお迎えのことと心  
からお慶び申し上げます。

また昨年は、われわれ議会  
に対しまして、議会報告会へ  
の参加や本会議傍聴など多岐  
にわたり温かいご支援、ご協  
力を賜り厚く御礼申し上げま  
す。

さて、平成23年3月発生の  
大震災および原発事故から早  
いもので、もうすぐ4年が経  
とうとしておりますが、双葉  
地方はもとより福島県全体と  
してもまだまだ事故からの復  
興には程遠い気がいたしてお  
ります。日々感じることは、  
全国的に少しずつあの大災害  
のことが忘れ去られようとし  
ているのではないかと、大い  
に危惧しているところであり  
ます。

葉地方の議会の方々との交流  
を図り、支援に努めていると  
ころであります。また風評被  
害の払拭についても事あるご  
と、関係各位に要望活動を  
行っているところであり、復  
興の加速化にも努めていく所  
存であります。

今年、小野町は昭和の合併  
から60年目という記念すべ  
き節目の年となりますが、その  
長い年月の間にさまざまな分  
野において、大きく変貌いた  
しております。道路網の拡  
充、教育環境の充実、より良  
い生活環境の整備、産業構造  
の変化など、著しい発展を遂  
げてまいりました。その一方  
で社会構造の変化により、失  
われたものも少なくありませ  
ん。現代社会は今、少子高齢  
化の急激な進展により人口減  
少という大きな難題に直面し  
ております。特に生産年齢人  
口の減少は、自治体経営にお  
いて大きな影響を及ぼすもの

と考えられます。そこで、こ  
れからは少子高齢化社会が必  
要とする多様で高度化する住  
民ニーズに応えうる自治体運  
営、さらには自治体が独自に  
判断し対応できる仕組みの構  
築が早急に求められておりま  
す。

そこでわれわれ議会とい  
まして、今後の町のある  
べき姿、進むべき方向性、町  
民皆さまの福祉向上策など、  
議員同士の議論を深め、あら  
ゆる観点から調査研究し、行  
政への政策提言を推進してい  
く考えであります。その一環  
として、昨年、議会の責務、  
また行政への関わり方などに  
ついて、福島大学の教授や学  
生の皆さんとの意見交換会な  
ども行い、自分たちの意識の  
高揚につなげているところで  
あります。そのほかにも、町  
民一人一人の健康づくりを  
テーマに掲げ、健康増進に関  
しての先進地視察や講演会出

席などを通じ、行政、各種団  
体、企業、町民の皆さまが統  
一した考えのもと、健康づく  
りの推進、対策強化ができな  
いかなど、調査研究を進めて  
いるところでもあります。

また今年、町民の皆さま  
が待ち望んでいた公立小野町  
地方総合病院が新築、移転開  
院する予定であり、健康づく  
りを進めていく上でも大いに  
核となることを期待するもの  
であります。

いづれにいたしましても、  
合併60周年記念の年でありま  
す。長い年月をとおして培わ  
れてきた良き風土、共生でき  
る概念、世代間で受け継がれ  
てきた思いなど、大切なもの  
を残しつつ、議会ももちろん  
であります。行政も町民の  
皆さまも、5年先、10年先を  
見据えた考え方に沿って、町  
づくりを進めていかなければ  
と思ひます。活力ある魅力に  
あふれた小野町実現のため、

今後においても、  
町民皆さまのご指導、  
ご協力を賜り、議会と  
しての責務を議員全員で全う  
してまいりたいと考えており  
ます。

結びに、新しいこの一年が、  
町民の皆さまにとりまして素  
晴らしい年となりますようご  
祈念申し上げます、新年のごあい  
さつとさせていただきます。



## 謹賀新年

### 小野町議会

議長 村上 昭正  
副議長 久野 峻  
議員 佐藤 登  
遠藤 英信  
水野 正廣  
宇佐見 留男  
龍田 良作  
田村 弘文  
宗像 芳男  
竹川 里志  
吉田 康市  
会田 明生

